# 宮崎空港

【実施主体：個社】

宮崎空港

| | 項目 | 具体的取組事例 | 取組内容 | 備考（効果等） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期】 | 賃上げを含む処遇改善のために不可欠な受託料の引き上げ | 外航受託料の引き上げ | 本社にて、外航受託料の引き上げ交渉を実施。 | |
| | | 総代理店への委託料の見直し | 本社にて、R5年度契約料の引き上げを実施。R6年度契約料の引き上げを実施。R7年度契約料の見直し検討に着手。 | |
| | | 検査会社への委託料の見直し | 本社にて、国内定期航空保安協議会を通じて、R5年度契約料の引き上げを実施。R6年度契約料金の引き上げを実施。R7年度契約料の引き上げを実施するとともに処遇改善状況を確認。 | |
| | | 検査会社への委託料の見直し | 本社にて、国内定期航空保安協議会を通じて、R5年度契約料の引き上げを実施。R6年度契約料金の引き上げを実施。R7年度契約料の引き上げを実施するとともに処遇改善状況を確認。 | |
| | | 委託先との契約金額の見直し | 処遇改善含む賃上げ等、委託先社員の還元を前提として、委託先との契約金額に値上げを反映し実施済み。（継続） | |
| | | 委託元からの業務受託料引き上げについて継続交渉 | 委託元との契約交渉において実態に即した料金設定になるよう継続的に交渉を実施。 | |
| 【短期】 | 人材確保にマイナスに働く受託契約の内容の適正化（キャンセル料の設定　等） | 外航受託契約条件の見直し | 本社にて、最低保証条項やキャンセル料条項の導入を検討・実施中。 | |
| | | 検査会社への委託契約条件の設定 | 本社にて、検査会社への委託契約に時間保証を継続して設定。検査場のレーン数に応じ総括責任者の配置も支払い対象化。 | |
| | | 委託先の人材確保を下支えするための契約条項追加 | 最低保証料金の設定や品質連動制度等、委託先の経営の下支えやモチベーション向上に繋げられるような契約条項について、順次、追加設定を進めている。（継続） | |
| | | イレギュラー発生時の対応について特別料金の設定 | 各社との契約締結時に諸条件について整理を行い、料金設定を交渉。 | |

【実施主体：個社】

宮崎空港

| | 項目 | 具体的取組事例 | 取組内容 | 備考（効果等） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期】 | 人材確保にマイナスに働く受託契約の内容の適正化（キャンセル料の設定　等） | 受託料金の時間単価の値上げ交渉 | 保安検査業務の適正価格の提示 | R7.4から、時間単価の引き上げ確定 |
| 【短期】 | 職場環境改善に向けた取組の推進 | 職場環境課題の定期的なヒアリング | 本社にて、全国空港所長による定例会議等を通じ毎月職場環境課題の集約を実施。対応を検討中。 | |
| | | 更衣室の劣化した天井・壁・床等の修繕、ロッカーの更新 | 職場環境の改善を図るため、女子更衣室の修繕を実施、及びロッカーの更新を行う予定。社員エンゲージメントの向上、採用競争力の強化を図る。 | |
| | | 女性控室の環境改善 | 壁紙の張替え | |
| | | 空港事務所の労働環境改善 | 事務所の定期的な清掃（月、木） | |
| | | 最低賃金の上昇を含めた値上げ交渉 | 地上作業監視業務の時間単価の引き上げ交渉 | |
| 【短期】 | 職員の負担の集中を回避するための正確な現状把握 | 生産量ならびに生産対応状況の把握 | 本社にて、総代理店の生産対応状況を毎月把握。 | |
| | | 残業時間の均等化 | 一部の社員に残業時間が集中しないようにシフト作成を実施 | |
| | | 保安検定資格者の配置 | 保安検定資格者の把握と育成 | 1級5名　2級2名が取得 |
| 【短期】 | 適切な業務量調整による高負荷の抑制 | 生産量ならびに生産・ダイヤ調整 | 本社と空港担当にて過度な運航便の輻輳が発生しないよう半期ダイヤ調整を実施 | |

【実施主体：個社】

宮崎空港

| | 項目 | 具体的取組事例 | 取組内容 | 備考（効果等） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期】 | 適切な業務量調整による高負荷の抑制 | 外航受託時の生産体制並びに受託頻度などの調整、外航側からの応援要員派遣 | 本社にて外航と調整し、都度外航側と調整を実施、応需できない業務は外航自社にてハンドリング実施 | |
| | | 派遣社員の活用 | 業務内容を限定した派遣社員を活用 | 社員の負担軽減、並びに残業時間軽減にもつながっている。 |
| | | グラハン資格者増員 | 他部署の職員に対して、グラハン業務の教育を実施 | 資格者を増員した事により、グラハンの残業時間分散することが出来た。 |
| | | 人員不足解消のための雇用の多様化 | 契約社員や短時間労働社員の雇用 | |
| | | 外航側からの応援要員派遣 | 本社にて外航と調整し、不足人員を外航側からの応援要員で暫定的に充足。 | |
| 【短期】 | 採用活動の推進（グラハン経験者採用の強化（Uターン・Iターンの活用） 等） | 総代理店合同企業説明会の実施 | 総代理店各社と人財課題についての意見交換を実施し、オンラインでの合同企業説明会を実施。 | |
| | | 採用情報の広範囲での広報活動 | 自社グループHPの採用情報に地区総代理店の採用情報（職種別）を掲載し無償で広い範囲で採用広報をサポート | |
| | | ・合同企業説明会への参加<br>・インターンシップの受入れ<br>・派遣社員の受入れ<br>・アルバイト雇用 | 合同企業説明会に参加し、積極的な採用活動を実施。<br>また、専門学校や大学からのインターンシップの受け入れも並行して実施。即時の人材確保としては、派遣社員・アルバイトの採用も展開。 | |
| | | ・賃金ベースの改定<br>・年間休日の改定 | 職員の生活環境を向上させ、同時に競争力を持った採用を進める為、大幅な賃金UPを実施。<br>また、年間の公休日数は110日⇒120日へ増やし、従業員の待遇改善を実施。 | |
| 【短期】 | 教育期間の短縮に向けた工夫（実践技術に特化した訓練等） | | | |

【実施主体：個社】

宮崎空港

| | 項目 | 具体的取組事例 | 取組内容 | 備考（効果等） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期】 | 需要回復の進捗状況に応じた、限られたリソースの集中的な投入 | 事業所間での人員支援 | 急激な航空需要の回復に対応すべく、事業所間での支援体制を構築し、全社での対応を実施。 | |
| | | 社内応援者の確保（資格者、経験者） | 多客期や国際線再開に際し、他部署からの応援者を行っていく | |
| | | | | |
| 【中期】 | 長期に誇りを持って勤められるキャリアパスの整備 | | | |
| 【中期】 | ハード・ソフトの両面からの職場環境改善の推進 | 施設・設備の改善 | 休憩室、更衣室、通信環境等の現状調査、および改善を実施。IT環境の整備、暑さ対策等を順次実施。 | |
| | | カスタマーハラスメント対策の推進 | 同業他社間において、共同で「カスタマーハラスメントに対する方針」を策定。 | |
| | | 空港ターミナルビル立て替えに伴い、新事務所/休憩室を設置 | 大幅な事業拡大を実現する為に、社員の増員ならびにESを向上させる為に事務所ならびに休憩室を確保し、職場環境を改善した。 | |
| | | 空港事務所の労働環境改善 | 事務所の定期的な清掃（月、金） | |
| 【中期】 | 特定技能制度の積極的な活用 | 特定技能制度導入に向けた研修会・勉強会への参加 | 他社での導入事例や進めていく上での課題を理解し制度活用を検討模索 | |
| | | 特定技能制度を活用したスタッフの受け入れ | 特定技能登録支援機関と連携し、受け入れに向けた社内体制の整備を実施。 | 不足している正社員雇用を補うとともにインバウンド拡大 及び 国際線業務拡大に対応 |

【実施主体：個社】

宮崎空港

| | 項目 | 具体的取組事例 | 取組内容 | 備考（効果等） |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 【長期】 | 短時間労働やマルチタスク化を含む多様な働き方の実現 | | | |
| 【長期】 | 業務内容や技術に応じた賃金の設定 | | | |
| 【長期】 | 就航メリットを享受する主体間のリスク分担の実現 | 自治体や空港ビルとの連携 | 保安検査、給油、CIQなどの当社受託領域以外の調整状況についても必要に応じ確認しつつ受託準備を実施。 | |
| 【長期】 | 人件費圧縮競争を防止する観点からの多重委託構造や雇用慣行・契約慣行の見直し（保安検査における長い拘束時間の見直し　等） | 特定業務に対する委託費構造改革 | 二次委託の多い特定業務に対する委託費構造改革に着手。 | |

## 【実施主体：空港会社等】

宮崎空港

| | 項目 | 具体的取組事例 | 取組内容 | 備考（効果等） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期】 | 空港内の労働環境の改善 | | | |
| 【短期】 | 空港の知名度を生かした採用活動（空港短期の合同ツ説明会　等） | 空港内事業者（7社）による、採用合同説明会の開催 | 宮崎県からの補助金をうけ、CM等の広報活動を実施 | |
| 【短期】 | マルチタスクを担うことができる空港人材の育成に向けた研修 | | | |
| 【短期】 | 空港WGの活動推進 | 空港連絡会、エアライン協議会の定期開催 | 各社の抱える問題等を共有し、改善を図る等の活動<br>（例）保安検査場の混雑緩和対策について、空港ビルを含む関係者が連携して利用者の誘導を行った。 | 多客期の混雑が緩和されるとともに、従業員のストレス軽減にも寄与した。 |
| | | | | |
| 【中期】 | GSE車両の共有化・共用化の推進 | | | |
| 【中期】 | 男女比の極端な偏りの解消に向けた取組推進（「旅客は女性」等のイメージ払拭、更衣室等の施設整備　等） | | | |
| | | | | |
| 【長期】 | 就航メリットを享受する主体間のリスク分担の実現 | | | |
| 【長期】 | スマートレーン等の先進機器の導入 | ①検査員不足への対応<br>②スループット向上<br>③お客様のストレス緩和 | 令和7年度末に導入予定でA/Lと協議中 | |
| 【長期】 | サプライチェーン等を意識した効率的な設備配置に向けた調整 | | | |

## 【実施主体：地方自治体】

宮崎空港

| | 項目 | 具体的取組事例 | 取組内容 | 備考（効果等） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期】 | 地元グラハン会社・検査会社とのコミュニケーションの強化（人員体制等の正確な現状把握　等） | グラハン会社や検査会社を含む空港関係者との、国際線再開に向けた意見交換会 | 国際線再開に向けた取組の現状と課題を共有 | ソウル線の運航を再開（令和5年9月27日）<br>台北線の就航（令和6年11月26日） |
| 【短期】 | 空港業務は地域の雇用を支える地場産業であるという観点から、部局横断的な連携の下での取組の実施 | | | |
| 【短期】 | 空港業務支援も誘致支援の一部と位置づけた上での関係部局（観光、産業振興　等）と連携した支援の実施 | | | |
| 【短期】 | 空港WGの活用推進 | | | |
| | | | | |
| 【中期】 | 地方経済を支える空港業務の担い手が真に求めている支援措置の検討（空港アクセスの不便さ等を考慮した住居支援、通勤支援　等） | | | |
| 【中期】 | 特定技能の在留資格を有する外国人が地域に馴染むための環境整備 | | | |
| | | | | |
| 【長期】 | 就航メリットを享受する主体間のリスク分担の実現 | | | |
| 【長期】 | 持続可能な観点からの戦略的な路線誘致（交通部局と観光部局との緊密な連携） | | | |
| 【長期】 | 地方経済を支える空港業務の担い手が真に求めている支援措置の充実 | | | |

## 【実施主体：国】

宮崎空港

| | 項目 | 具体的取組事例 | 取組内容 | 備考（効果等） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期】 | 各空港におけるベストプラクティスの横展開（事例収集・整理　等） | 各地の空港におけるベストプラクティスの横展開 | 各団体が、空港業務を持続可能なものにしていくための取組を検討・実施する際の参考とするため、HPの公表を宮崎県、空港ビル、関係事業者へ展開。 | |
| 【短期】 | 地域の意欲的な取組への積極的な協力（空港説明会への参画等） | 空港内事業者（7社）による採用合同説明会の協力 | 宮崎空港の安全・安心に携わるにグランドハンドリング、ビルマネジメント等の様々な事業者がブースを出展し、企業の紹介や採用に向けた説明会において、参加に訪れる者用に駐車場用地の提供を計画した。 | |
| 【短期】 | 生産性向上・業務効率化の実現に向けた取組支援（先進機器の整備補助　等） | 地方空港等受入環境整備事業費補助金（業務効率化第3次） | 補助金の対象となる空港内事業者に対し、航空・空港関係者が実施する業務効率化に資する環境整備事業に伴う先進機器等の導入に係る費用補助に関する申請について、上申までの工程を含め丁寧に周知した。 | |
| 【短期】 | 各主体による取組の重要性の発信 | ありがとうポスターの普及 | 空港業務に従事する方が『この仕事に意味がある』と実感できるよう、航空局が作成したポスターを掲示した。 | |
| | | 宮崎空港連絡会を通じた空港の円滑な運営 | 各社の抱える問題等を共有し、空港事務所において対応できることへ取り組む。 | |
| 【短期】 | 空港WGの活用推進 | 空港WGの活用推進 | 関係各社が抱える課題の共有及び対策検討の空港WGの活用について、認識を一致。 | |
| | | | | |
| 【中期】 | 空港DXの導入促進に向けた実証実験 | 他空港の導入事例等の横展開 | 空港WGにおいて航空局HPに掲載されているベストプラクティス等の他空港事例について横展開を行った。 | |
| 【中期】 | 更なる支援措置等の検討（人材確保・育成、業務効率化、GX／DX　等） | 地方空港等受入環境整備事業費補助金（令和5年度補正予算・空港業務体制強化支援事業）の募集・周知 | 補助金の対象となる空港内事業者に対し、急速なインバウンド需要に国内各地で対応するとともに、空港機能が持続可能な形で維持・発展できるよう、空港業務の体制強化を図ることを目的とした経費の一部の補助の応募について、上申までの工程を含め丁寧に周知した。 | |
| | | | | |

## 【実施主体：国】

宮崎空港

| | 項目 | 具体的取組事例 | 取組内容 | 備考（効果等） |
|---|---|---|---|---|
| 【長期】 | 先進技術等の開発・実証、更なる活用の推進 | WG内の情報確認、共有 | ・持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会の開催結果について、航空局HP公表された情報をもとに空港WG内へ共有を行った。 | |
| 【長期】 | 業界ルール整備を前提とした、専門学校との連携強化や共同訓練の推進 | WG内の情報確認、共有 | ・持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会の開催結果について、航空局HP公表された情報をもとに空港WG内へ共有を行った。 | |
| 【長期】 | 処遇改善・業務効率化等に必要な保安関係料金の適正水準のあり方の検討 | WG内の情報確認、共有 | ・持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会の開催結果について、航空局HP公表された情報をもとに空港WG内へ共有を行った。 | |
| 【長期】 | 必要に応じた制度的見直し | WG内の情報確認、共有 | ・持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会の開催結果について、航空局HP公表された情報をもとに空港WG内へ共有を行った。 | |
| 【長期】 | 空港に関する基礎的データの収集・整理（職員数、年齢構成、年代別年収、離職率　等） | WG内の情報確認、共有 | ・持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会の開催結果について、航空局HP公表された情報をもとに空港WG内へ共有を行った。 | |